地域医療研修レポート

名古屋市立大学病院　研修医

地域医療研修の一環として新城市民病院にて１か月研修をさせていただきました。
研修を始める前の地域医療のイメージは、長期通院患者さんを対象に慢性疾患の治療にあたる、重症なものや入院が必要な患者さんは大きな病院に転院してもらうといったものでした。しかし先に研修にきていた同期から聞いた話では、どうやらそのイメージは、新城市民病院には当てはまらないとのことで、さらに実際に研修にきてその考えが間違いであったことを確信しました。新城市民病院は地域の病院とはいえ、総合病院が少ないこの地域では山奥からでも患者さんが受診されるため、地域の砦のような病院であり、患者さんの数も想像以上に多くいらっしゃいました。さらに外来診療以外にも時間外受診や救急車の受け入れも行っており、私が想像していたよりも多くの患者さんを受け入れ、その結果扱う疾病の幅が地域病院とは思えないほど広く、非常に驚きました。さらに驚いたことは全ての科が常に稼働しているわけではないために、多くの患者さんを総合内科の医師が診察し、治療や入院管理を行っているということでした。私が研修してきた病院では専門科ごとに分業して患者さんの診療を行っていたため、総合内科というのはどこの科も受け入れないような患者さんを振り分ける科、そんな立ち位置にありました。新城市民病院にきて、こういった専門制度が十分に機能していないような地域においてこそ総合内科の需要があり、価値があるのではないかと感じました。
研修の間は、この総合内科に所属し、主に初診外来と救急車の初期対応に従事しました。研修が始まってすぐ困惑したことは今までやってきた救急外来と外来診療というものが全く異なるということです。これまでは緊急的な疾患の除外を目的に診察や検査をしており、そのためには採血はもとより CT や MRI などの検査も安易に行っていました。また緊急的でない場合には診断はつけずに、帰宅してもらうという一時的な関係が基本でした。しかし外来診療では問診・診察をもとに鑑別に挙がる疾患に対して検査の感度・特異度を考慮した必要な検査だけを行い、不必要なコストをかけない、また必要ならば外来でフォローしていき、その患者さんの生活習慣にまで踏み込んだ長期的で、かつ深い関係を診療の中で築いていくということが基本であり、このような診療スタイルに当初は少し難しさを感じました。しかし感度・特異度を考慮した検査選択や患者さんの生活に沿った治療というものは今後自分が外来を行う時には必要なものであり、研修医の今、このことを経験し考えることが出来たということは非常に有意義であり、良い経験になったと思います。
また研修中には、毎日勉強会と症例の振り返りを行っており、様々な知識を共有し、フィードバックしてもらえるという場があったので、やりっぱなしになる事がなく、とても勉強になりました。up to date を含めた EBM に基づく医療に触れることもでき、このような経験は今後私の医師としての姿勢を見直す良い機会にもなりました。このような姿勢で医療を行うことを、先生方ほどは無理かもしれませんが、自分ができる範囲で尽力していきたいと思います。
その他には院外実習として作手診療所やしんしろ助産所、訪問看護・訪問リハビリを経験させていただきました。普段病院内で行う医療とは異なり、患者さんはもちろん患者さん家族も含めた包括的で、密接した医療が行われており、地域全体で患者さんの対応をしているという温かみを感じました。忙しい中で謀殺されてしまいそうな、この温かみを忘れずに今後も患者さんやその家族と接していけたらと思います。
１か月という長いようで短い期間でしたが、総合内科の先生方をはじめ、看護師さんや技師さん、事務の方々を含むたくさんの方々に勉強させていただきました。この場をかりて感謝の言葉をのべさせて頂きます。
本当にありがとうございました。